

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

トヨタが勝者となる保証はない (コロナ後の世界)

1. 令和2年5月12日、トヨタが決算説明会で示した業績見通しは、「2021年3月期の営業利益5000億円(前年比79.5%減)」。どうにか黒字は確保するものの、豊田章男・トヨタ社長が「コロナショックはリーマンショックよりもインパクトがはるかに大きい」と言うように現状認識は厳しい。恐ろしいのは、コロナショックが、日本の自動車産業を縁の下で支え、完成車が世界に伍して戦える競争力を生み出していた下請け企業に壊滅的な打撃を与えてしまうことだ。
2. 自動車産業には、「CASE (コネクテッド、自動運転などの四つの技術トレンド)の波が押し寄せていた。車が巨大なスマホへ変わるかのような革新的変化である。つまり、トヨタの言葉を借りるならば、CASEにより自動車業界は、「100年に1度の大変革の時代」を迎えていたところだったのだ。そこに世界販売台数が2021年3月期に2割減となる大減産ショックが起きた。
3. とりわけ自動車メーカー幹部が危機感を募らせていたのが、異業種による自動車産業への参入だ。「意思決定のスピードもITに関する技術力、投資力も桁違いな米GAFA (グーグル、アップルなど)や中国のIT企業が本気で殴り込みを掛けてくれば、トヨタですらコロナ後に勝者になれるか分からない」(素材メーカー幹部)。
(参考:「週刊ダイヤモンド」2020年5月30日号)

経営者のための理念・哲学

「大拙君のこと」(哲学者・西田幾多郎)

1. 鈴木大拙君は私の中学時代からの親しい友人の一人である。70の老翁なお当時の事を思い浮かべることができる。君はその頃から他と異なっていた。弱年にして既に超世間的で深く人生問題について考えていた。(中略)私は多くの友を持ち、多くの人に交ったが、君の如きは稀である。君は最も豪そうでなくて、最も豪い人かも知れない。私は思想上、君に負う所が多い。
2. 大拙君は高い山が雲の上へ頭を出しているような人である。そしてそこから世間を眺めている、否、自分自身をも眺めているのである。全く何もない所から、物事を見ているような人である。そういう所が奇抜なように聞こえることがあっても、それは君の自然から流れ出るのだから。君には何らの作意というものはない。その考える所が、あまりに冷静と思われることがあっても、その底には、深い人間愛の涙を湛えているのである。

(参考:「致知」:2020年8月号)

人事・労務について

脱マシン型人材を育成する

安宅 和人 (慶応大学教授、ヤフーCSO「最高戦略責任者」)

1. 過去100年、日々の改良が重要な大量生産型の社会では、部品としての役割を全うするマシン型の人材が、重要な役割を果たすことができた。だが、これからはそうはいかない。AIやロボティクス技術により、機械による自動化が飛躍的に進んでいき、マシンの業務が廃れていく中で、こうした人材の価値は急減していく。
2. 今後育成すべき人材で一番重要なのは、脱マシン型人材を育成すること。具体的には、その人ならではの価値観を持ち、自分なりに世の中を判断でき、欲しい世界を描ける人材。生々しい体験を多く重ね、自分なりに感じ、アウトプットすることがカギになる。日本の経済が世界で圧倒的な存在感を示していた時代はとうに過ぎた。10~15年後には世界におけるGDP (国内総生産)の割合は数%ほどまで落ち込むだろう。日本が世界のハブとなるような価値を生み出す人材を育てるべきだ。
(参考:「週刊東洋経済」2020年5月30日号)

古典に学ぶ

意志の弱さ

(解説) 総じて世の中のことは心のままにならぬが多い。例えば、一度こうと心の中に堅く決心したことも、何かふとしたことからわかに変ずる。人から勧められてついにその気になると云った事もあるが、それが必ずしも悪意の誘惑でないまでも、心の遷転から起こることで、かくのごときは意志の弱いのであるといわねばなるまい。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)